

## 見性院住職からの一言その十五（今年の騒動を振り返って）

去年の騒動を忘れてしまうくらい今年は充実の日々、更に言うなら多忙続きの毎日です。仕事に修行に邁進し余計なことに煩わされないで選択と集中が出来ていることには、一重にみなさまのおかげで深く感謝しております。

今週はそれぞれ日時は異なれど 3 人のご住職が別々に訪問していただき、今のお寺の現状や課題を話し合うよい機会を得ることができました。その中には下積み修行が永く苦勞人の方が私に「橋本さん、もういい加減、一部の檀家の人と縁を切りました。宗門とも一線を画して自立した人生を歩むことにしました。腹をくくります。」と言われたのです。「橋本さんが正解でした。」と。私は心の中で「ついに来たか！」とにんまりとしてしまいました。ただ最近は特に支援者のご住職たちから「お見事、あなたの思うように世界は動いている。」と絶賛していただけることも時折あります。

どんなに立派なご住職であっても 3 分の一の人は住職の方針に反対なのが檀家制度ですと、かつて私は恩師から教えられました。そして先代は「お前も住職になれば相当数の敵を作るぞ」と口癖のように言ってました。それは今にして思えば真理でした。去年の大騒動の中核の人たちは昔から私に敵意を持ち、手ぐすねを引いていたといえます。それが頭をもたげて結束したようです。そして近隣寺院と徒党を組み、宗務所を巻き込んで、住職の追放排斥運動に至ったようです。宗会議員や部長・課長を焚き付けては揺さ振りをかけていました。一体全体、彼らの目的は何だったのでしょうか。単なるあいつは嫌いだから潰してしまえということだったのでしょうか。聞いてみたいものです。

私の親友は俺は檀家制の中でしかもはや生きていけないので仕事や買い物はすべて檀家の中で済ませる。今となってはもうこれしか生きていく道はないと言うのです。そうしないと仏教界や地域で生存できないそうです。そういう地域なのだそうです。そして私のような理想的生き方をしたかっただけれども数十年前に潰されたと告白されました。彼はお前はとにかく頑張れと言ってくれます。

“檀家の中で済ませる”これは辛い事です。実は檀家だからと言ってそうそうよくしてくれる人など実は稀です。この機会にお布施や寄附を取り戻そうという人もいます。そして檀家が厄介なのはちょっとしたことでも近所に言いふらし住職の悪口を言っただけで仲間を増やそうとすることです。そして総代・世話人であってもお寺のことより檀家の利益・立場ファーストの人が少なからずいたことは残念なことでした。ですから私は今はできるだけ関わりを持たないようにしているのです。そしてこれはどこのお寺も大同小異であるということです。わが見性院に移動したいという離檀予備軍の人たちは近隣寺院に多勢いる

と聞きます。それも総代や総代経験者であってもです。いずれは菩提寺もなくなっていくと思います。また私のことをすこぶる批判してきた住職たちほど檀家（信徒）の人たちから信頼も人気もないという話はよく聞きます。今の人たちは心から尊敬できる僧侶を求めています。檀家が困るのは何かにつけて住職が悪いの一点張りです。檀家によくしろばかりです。これでは住職をする人など将来はいなくなるのではないかと危惧するばかりです。

また、反対派の一部の人たちはすべて込みで一万円をやれとお布施の値引き交渉をしてくる人がいます。当院は最低限のお布施を提示しているにもかかわらずです。また実際にお布施を包まない、定額の5分の一などの嫌がらせもあります。モラルの欠如です。そこまでして供養・法務を依頼する意味がどこにあるのでしょうか。そういう家柄の人はいずれ早晚破綻していくのでしょうか。

次に遺族会に対して一言申し上げます。毎年4月末日に戦没者慰霊祭を当院本堂、そして境内忠魂碑の墓前にて法要を行っております。総額のお布施額は一万円です。これで一年間の管理費も賄っています。何の感謝もありません。持参した供物わずかも自分たちで分けて終わりです。法要前日にはよく掃除をしておくようにと言ってくるだけです。だれ一人奉仕の人はいません。単なるお客さん気取りです。自分たちはいまだに犠牲者なんだと思っているのでしょうか認識を改めていただきたいものです。まして少くない遺族年金を長期で給付されているのです。前会長は慰霊祭の依頼に来て毎回、1時間～2時間も長居をしてゆっくりお茶を飲んでいきました。今にして思えばいい迷惑でした。

そもそも当該忠魂碑はその昔、吉岡小学校の校庭にあったものが整備のため、已む無く当院に移されました。当時、当該地区の寺社仏閣では受け入れがどこもなかったそうです。そこで当院先代が暫定的に招致したそうです。（母が生き証人）ですからそろそろ当院はその役割を終えて、他の寺院にも応分の負担をしていただく時期なのだと存じます。遺族会の方には前向きに移転を考えていただければ幸いです。

最後に隣組についても申し上げます。葬儀の受付で隣組がお手伝いに来られます。一部の人ではありますが非協力的で日程表の配布やお手伝いをお願いしても、なしのつぶてでただにらみをきかせている人がいます。日頃の鬱憤を晴らさんばかりで飲食だけが目的のようにお見受けできることもあります。この隣組制度も若い人たちには今後は嫌がられていくと思います。これも一考に値する懸案事項かと思えます。

以上、前々から申し上げたかった私の主張ではありますが皆様方に一度検討していただければ幸いです。

（平成31年2月10日記）